

豊肥保健所(竹田市・豊後大野市)感染症情報



令和7年第28週 (7月7日～7月13日)

ダニ媒介感染症にご注意ください

近年、マダニによる感染症の報告が全国的に増加傾向です。春から秋にかけて、草むらや山林などに生息するマダニの活動が活発になりますので、屋外での活動が増える時期は、ダニ媒介感染症に気をつけましょう。

(主なダニ媒介感染症)

重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)、日本紅斑熱、つつが虫病 など

(予防のポイント)

- ・山や草むらに入るときは、肌の露出を避ける服装 (長袖・長ズボン・足を覆う靴) をしましょう。
- ・虫よけ剤の中には服の上から用いるタイプがあり、補助的な効果があるとされています。
- ・帰宅後はすぐに入浴し、体にダニがついていないか確認しましょう。
- ・ペットにダニ予防薬を使ったり、散歩の後はダニがついていないか確認し、ペットが感染しないよう注意しましょう。

(刺されたときは)

- ・無理に引き抜かず、医療機関を受診しましょう。
- ・マダニに刺された後は、数週間程度体調の変化に注意し、発熱等の症状があれば医療機関を受診しましょう。



腸管出血性大腸菌感染症 (O157) の報告がありました

大分県内で、7月14日に腸管出血性大腸菌感染症の報告がありました。

この感染症は、便を介して人から人へ感染したり、不衛生な取り扱いをした食品を介して広がる場合があります。予防には、調理前やトイレ後の手洗い、食肉をしっかり加熱すること、食品の適切な保管などが重要です。



(第28週)

疾患名 年齢	インフルエンザ	新型コロナウイルス感染症	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱 (プール熱)	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘 (みずぼうそう)	手足口病	伝染性紅斑 (リンゴ病)	突発性発疹	ヘルパンギーナ (おたふくかぜ)	流行性耳下腺炎	マイコプラズマ肺炎 (小児科県独自)	麻疹 (全数報告)	風しん (全数報告)	百日咳 (全数報告)	つつが虫病 (全数報告)
0歳																	
1～3歳						0.33											
4～6歳											0.33						
7～9歳																	
10～14歳						0.33											
15～19歳						0.33											
20歳以上		0.40															
今週		0.40				1.00					0.33						
70歳以上 (再掲)																	
先週		1.00				0.33			0.67	0.33	0.33						

*指定された医療機関(定点)から報告された患者数を、1定点あたりに換算して計上しています。(定点医療機関数; インフルエンザ5定点 小児科3定点)

疾患ごとの警報・注意報の基準値

※単位は定点あたり報告数

	流行発生警報		流行発生注意報
	開始基準値	終息基準値	基準値
インフルエンザ	30	10	10
咽頭結膜熱	3	1	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4	-
感染性胃腸炎	20	12	-
水痘	2	1	1
手足口病	5	2	-
伝染性紅斑	2	1	-
ヘルパンギーナ	6	2	-
流行性耳下腺炎	6	2	3
急性出血性結膜炎	1	0.1	-
流行性角結膜炎	8	4	-

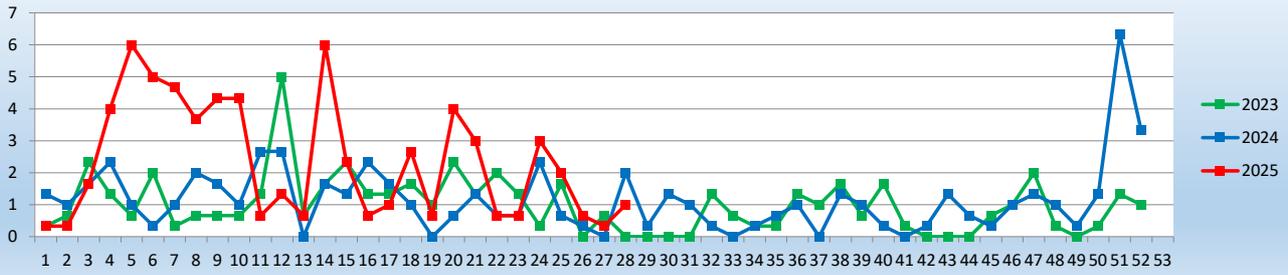
★ R5.8月1日より大分県は新型コロナウイルスの流行状況を、季節性インフルエンザの警報・注意報を準用してお伝えします。

	警報レベル	注意報レベル	注意報レベル
新型コロナウイルス	30以上	20以上30未満	10以上20未満

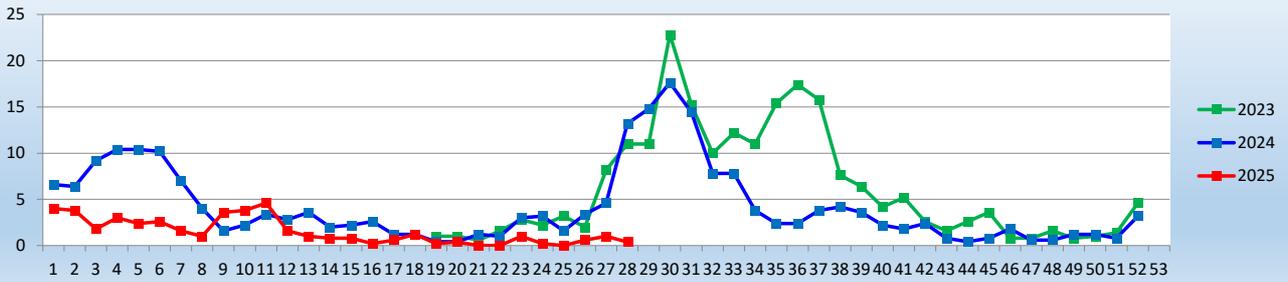
※警報レベルは大きな流行が発生または継続していると疑われることを指します。注意報レベルは、流行の発生前であれば今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性が高いことを、流行の発生後であれば流行が継続していると疑われることを指します。

豊肥管内 過去3年間の発生動向

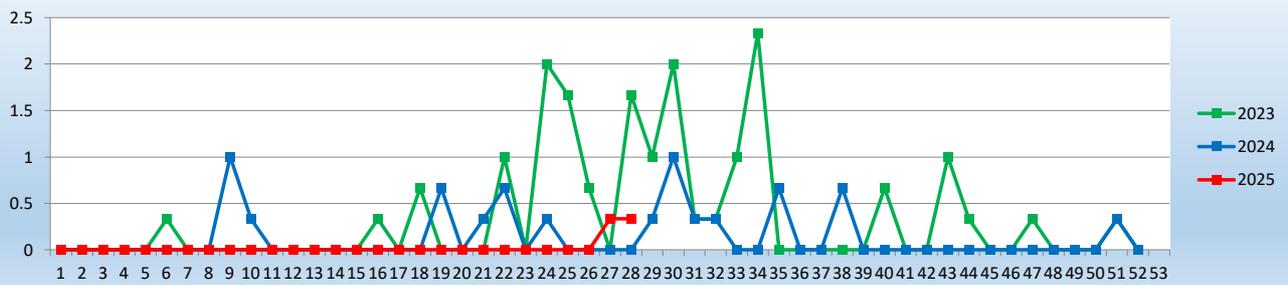
定点当たり報告数 感染性胃腸炎



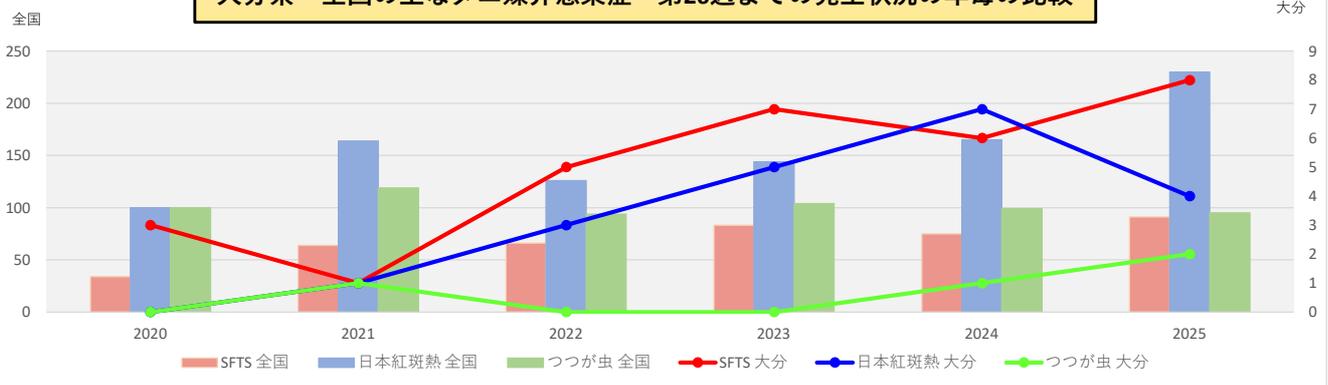
定点当たり報告数 新型コロナウイルス感染症



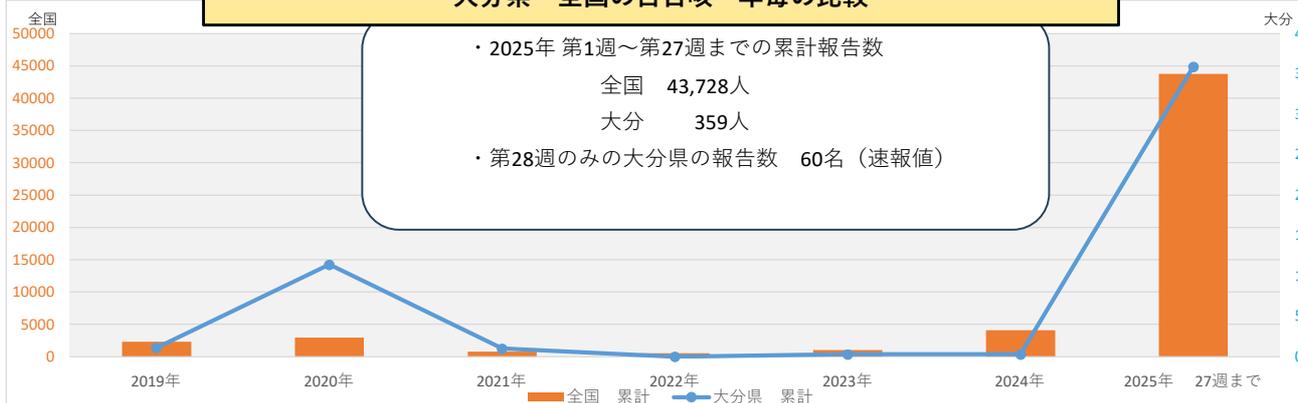
定点当たり報告数 ヘルパンギーナ



大分県・全国の主なダニ媒介感染症 第26週までの発生状況の年毎の比較



大分県・全国の百日咳 年毎の比較



百日せきにご注意ください

百日咳菌の感染によって、激しいせきの特徴とする急性の気道感染症です。

乳幼児では、激しいせきによる

無呼吸発作

むごきゅうほっさ

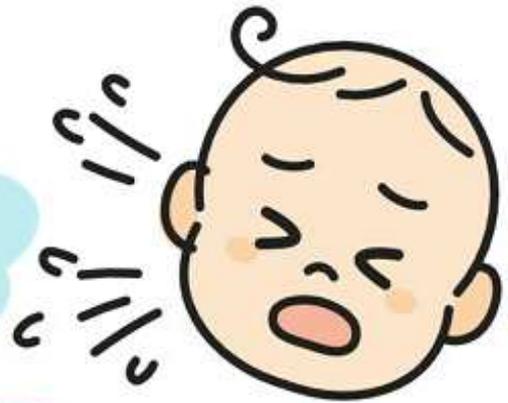
チアノーゼ

顔色や唇、爪の色が紫色に見える状態

けいれん

呼吸停止

に進展することがあります。



こんな症状がみられます

カタル期（約2週間持続）
かぜ症状で始まり、次第に咳の回数が増えて程度も激しくなります。

▼
痙咳期（約2～3週間持続）
発作性、けいれん性の咳が出るようになります。合併症として肺炎や脳症などもあり、乳児では注意が必要です。

▼
回復期
激しい発作は次第に減衰し、やがて回復に向かいます。回復まで、全経過で約2～3か月かかります。

予防と対策

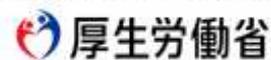
百日せきの予防には、生後2か月から定期接種として接種可能な5種混合ワクチン（DPT-IPV-Hib）等の接種が有効です。ただし、接種後年数が経過した人等での発病も見られます。マスク着用、手洗いなどの基本的な感染症対策を心がけましょう。



せきが続く場合は、医療機関の受診をご検討ください。

受診を迷った場合や夜間・休日の場合は、「こどもの救急 <https://kodomo-qq.jp/>」のサイトを参照したり、「#8000（こども医療電話相談）」にご相談ください。

詳しくは、厚生労働省ホームページをご覧ください



厚生労働省

感染症対策課 2025年5月作成



でんせんせいこうはん

伝染性紅斑

両頬に赤い発しん（紅斑）が出ることから「リンゴ病」とも呼ばれる小児に多い感染症です。



10～20日の潜伏期間の後
微熱・かぜに似た症状
この時期にウイルスの排出が最も多くなります。



こんな症状がみられます

ほっぺたがリンゴのように
赤くなります（紅斑）

発しんが現れたときにはウイルスの排出はほとんどなく、感染力もほぼ消失しています。発しんは1週間程度で消失しますが、中には長引いたり、一度消えた発しんが短期間のうちに再び出現したりすることがあります。

予防と対策

手洗い、マスク着用など

基本的な感染症対策を心がけましょう！

伝染性紅斑の主な感染経路は、「飛まつ感染」と「接触感染」です。子どもを感染から守るため、周囲の人も基本的な感染症対策を心がけましょう。

妊娠中又は妊娠の可能性がある方へ

これまで伝染性紅斑に感染したことのない女性が妊娠中に感染した場合、胎児にも感染し、胎児水腫などの重篤な状態や、流産のリスクとなる可能性があります。熱や倦怠感が出現した後に発しんが出るなど、伝染性紅斑を疑う症状がある場合は、医療機関に相談しましょう。また、感染しても症状がないこと（不顕性感染）もあるため、周囲に伝染性紅斑の人がいる場合は、妊婦健診の際に、医師に伝えてください。



詳しくは、厚生労働省ホームページをご覧ください

 厚生労働省

感染症対策課 2025年5月作成

